

News Release

2019年8月22日
N I T E (ナ イ ト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

自然災害をきっかけに発生する製品事故 ～備えは万全に～

1. 事故の発生状況

北海道では、自然災害をきっかけに発生した製品の事故は、2009年度から2018年度までの10年間に合計4件ありました。

また、自然災害発生によりガスや電気が止まった際に使用される製品（本資料では以降「非常用グッズ」と記述する）の事故は、2009年度から2018年度までの10年間に合計9件ありました。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を表1に示します。

表1 年度別事故発生件数（2009～2018年度）

自然災害をきっかけに発生した製品の事故

発生年度	合計
2009年度	0
2010年度	0
2011年度	0
2012年度	0
2013年度	2
2014年度	1
2015年度	0
2016年度	0
2017年度	1
2018年度	0
合 計	4

非常用グッズに関する製品の事故

発生年度	合計
2009年度	4
2010年度	1
2011年度	1
2012年度	1
2013年度	2
2014年度	0
2015年度	0
2016年度	0
2017年度	0
2018年度	0
合 計	9

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数（2009～2018年度）※1

自然災害をきっかけに発生した製品の事故

被害状況		合計
人的被害	死亡	0
	重傷	0
	軽傷	0
物的被害	拡大被害	3
	製品破損	1
被害なし		0
合計		4

非常用グッズに関する製品の事故

被害状況		合計
人的被害	死亡	0
	重傷	0
	軽傷	4
物的被害	拡大被害	4
	製品破損	1
被害なし		0
合計		9

(※1) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

(1) 雪による事故（ガス給湯器）

○2018年2月（北海道、年齢不明・女性、製品破損）

事故内容：ガス給湯器を使用したところ、異常着火し、ケーシング（筐体）が変形した。

事故原因：当該製品の給排気筒トップが氷で覆われ閉塞状態であったが、気付かずに当該製品を使用したため、給排気が正常に行われず機器内に滞留した未燃ガスに点火操作の火花が引火し、異常着火したことでケーシングが変形したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「積雪時には給排気筒トップの点検、除雪をする。雪により給排気筒トップがふさがれて不完全燃焼し、故障の原因になることがある」旨、記載されている。

(2) 非常用グッズに関する事故（カセットこんろ）

○2013年10月（北海道、60歳代・男性、軽傷）

事故内容：カセットこんろが点火しなかったため、ライターの炎を近づけて点火操作したところ、大きな炎が上がり、逃げようとした際に肩に軽傷を負った。

事故原因：使用者が、手入れの際にカセットこんろ内部を一部変形させていたため、ガスボンベが正しく装着されなかったことから、ガスが漏れ、ライターの炎で引火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、ガス漏れに気づいたときには「直ちに使用をやめ容器（ボンベ）を外す。」また「周辺での火の使用。」を行わない旨が記載されている。

3. 非常用グッズによる事故を防ぐポイント

- ①いつ起こるかわからない自然災害に備えて、事前に製品の点検を心がけましょう。
- ②正しい製品の使い方をするように、取扱説明書等の確認をしっかりとしましょう。

4. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」として
ください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者:大井、鈴木、下川

電話:011-709-2324